

ポラリスを仰ぐ北の大地から



北極星

こくま座



吉村昭記念文学館を訪ねて

千歳医師会 会長 佐藤 貢

トランプ大統領の初訪日で緊張感漂う東京での学会に参加して、そのあと吉村昭記念文学館を見学した。荒川区立図書館、「ゆいの森あらかわ」の中にあり、小規模で落ち着いたコーナーであった。吉村氏は多くの名著を残したが、人柄は謙虚で物静かな紳士と思われ、記念館からもそんな雰囲気を感じられた。『戦艦武蔵』『三陸海岸大津波』『ふおん・しいほるとの娘』など多数の作品を書いた。北海道に関連した作品も多く、『赤い人』『破獄』『海の祭礼』などがある。

私の一番好きな本は『白い航跡』である。海軍軍医高木兼寛と陸軍軍医森林太郎(鴉外)の葛藤の歴史小説である。当時の日本の軍隊は兵士の脚気による体調不良、死亡が大きな問題であった。海軍高木の「食物原因説」と陸軍森の「細菌原因説」の手に汗にぎる対立に感動した。

吉村昭氏は2006年逝去されたが、津村節子夫人は現在も元気で執筆活動を続けている。夫人の作品としては『流星雨』『黒い潮』『海鳴』などが好きである。時代に弄ばれながら強く生きていく女の苦難の人生に感動した。そんな著名な小説家夫婦が互いに支え合い、強く静かに人生を過ごした空間を味わいながら一時を過ごした。

これからの長く寒い北海道の冬を吉村御夫妻の作品を再読して楽しもうかな、そんなことを思いつつ記念館を後にした。



同じ医者なら踊らにゃ損々

恵庭市医師会 会長 島田 道朗

気がつくと頭の中で、同じ音楽のフレーズが何度も繰り返すことはありませんか？ 私は、しょっちゅうです。この現象はイヤ・ワームと言うそうです。別に気になりませんが、最近ではNHK朝の連ドラのテーマソング、宇多田ヒカルの「花束を君に」とか、桑田佳祐の「若い広場」が頭も中でリピートしていました。まあ、何となく口ずさむ程度なのですが…。

昨年、仲間とレンタカーで四国旅行に行きました。かなりのハードスケジュールで四国全県を廻りました。愛媛の道後温泉から、しまなみ海道を経て一度尾道に渡り、再度岡山から瀬戸大橋を通過して高松へ。その後、鳴門で渦潮を体験してから徳島へと行きました。徳島市内の眉山ロープウェイの乗り場に隣接した「阿波おどり会館」で阿波踊りの公演を観ました。そこで聞いた、皆さんもご存知のお囃子『踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆なら踊らにゃ損々。あーらえらいやっちゃ・えらいやっちゃ よいよいよい！』が、旅行中、耳から離れなくなってしまいました。レンタカーでの旅なので運転中、「踊る阿呆に見る阿呆…」とリピートしていましたが、なぜか医師会に思いが至り、医師会活動もこういう事なのだ勝手に納得したのであります。

道医の役員の先生も郡市医師会の会長さんたちも、日常診療が忙しい中、医師会活動に精を出されています。方や、あまり積極的に医師会活動に参加されていない先生も多いと思われます。私は、郡市医師会長会議や、道医代議員の会議に出席した日は、仲間とススキノに繰り出すのが一番の楽しみであります。また、医療行政の情報や、裏話などがいち早く耳に入ります。その他、いろいろ役得もあるかもしれません。まさに、私は踊る阿呆、同じ医者なら踊らにゃ損々、なのであります。会員の皆様、積極的に医師会活動に参加しましょう。

